

【収藏品紹介】
『盆栽』（創刊号、大正10年）

『盆栽』は、大正10年6月に大日本盆栽奨励会によって創刊された盆栽専門の月刊誌です。編集・発行人の変更を経て、昭和42年（518号）まで継続的に刊行されており、大正・昭和の盆栽史を語る上で欠かすことのできない資料です。今回は、さいたま市大宮盆栽美術館が収蔵する『盆栽』の中から創刊号を取り上げ、創刊の経緯や掲載記事の内容について紹介します。



『盆栽』創刊号（大日本盆栽奨励会、大正10年6月）

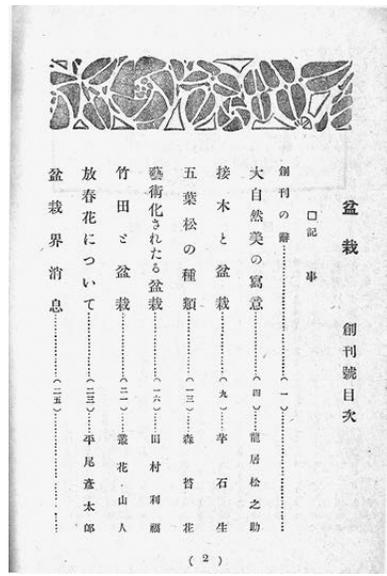
大日本盆栽奨励会は、清大園など東京の盆栽園18園が「発起人」となって、大正9年秋に発会した組織です（大日本盆栽奨励会の詳細は、拙稿「関東大震災後の盆栽界と盆栽村の創設」『さいたま市アーカイブズセンター紀要』4号参照）。創刊号の冒頭にある「創刊の辞」は、「閑人の閑は真正の閑ではありません」という一文からはじまります。続けて「忙中の閑こそ真の閑天地」と語り、忙しい「現代の人」にとっては「閑天地」が無ければならないと説いています。さらに「世は益々繁忙となり無味乾燥に傾きつつある時、吾々高雅なる趣味を求めなければなりません。凡そあらゆる趣味娯楽の内、盆栽程高尚あり、且つ一般的であるものは他に見出す事が到底不可能でせう」と、繁忙な時代に「高雅なる趣味」としての盆栽の価値が強調され、さらに一般性を兼ね備えたものであることが語られています。

目つ同好の連鎖ともなる機関の欠如して居るに鑑みて、茲に本誌を創刊した所以であります」と結ばれています。つまり、大正9・10年当時、盆栽を普及するための「機関」が不在であったことから、新たな組織・雑誌が求められたのです（『盆栽雅報』等の明治末年創刊の盆栽雑誌については本誌572号他参照。組織の名称に「奨励」が冠されている点に、当時の盆栽界の人たちの危機感がうかがえます。さて、創刊号に収録された論考には、接ぎ木の方法や木瓜の培養、五葉松の種類など整枝・培養論のみならず、盆栽の芸術論も並んでいます。このうち巻頭を飾る、龍居松之助「大自然の写意—日本庭園と盆栽」は、現在にも通じる盆栽の芸術論として興味深い内容が記されています。龍居松之助（1884—1961）は、当時、日本女子大学等で文化史を講じ、大正7年には日本庭園協会を創立するなど、文化史・庭園史を専門とした研究者です（『日本美術年鑑』昭和37年版）。大正10年7月に『文化観日本史』（精華書院）を刊行しており、文

化史研究の第一線で活躍していました。

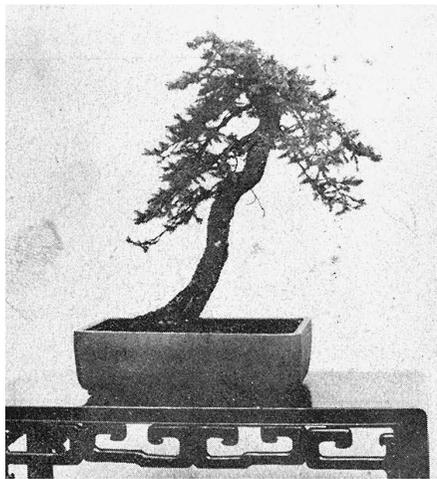
創刊号の論考では、まず飛鳥から室町に至る日本庭園の歴史が概観された後に、室町時代における禅の影響によって「大自然の写意を旨とする庭が発達した」こと、この日本庭園における「大自然の写意」が「盆栽と最も類似した性質を有している」ことが指摘されています。

その上で龍居は、「写意」とは何かと問いかげ、次のように述べています。「写意」とは、大自然の「要領」を写し、その「全美」を伝えるもので、「絵画」と同じようなものであるが、その極致は「水墨画の域」に達すべきものであると。龍居は、大自然の美を写し得ている水墨画の筆法



創刊号の目次

は「実景」をそのまま写し取った「写真」などには「見ることの出来ぬ力」があるとし、「忠実なる写生を用ゐずして、写意の主義」を用いたもののうち「最も我が意を得たるもの」が盆栽であると述べています。さらに、「一尺にも足りない小さな杉を二、三本ほど鉢に植えて、「風なほ暗き深山を偲ばしめる」というのは、これ全く「写生」ではなく、「写意」であり、この「写意」の主義をもって発達してきた盆栽は、「庭園以上の進歩を示してゐる」と



大日本盆栽奨励会第2回陳列会に出品された平野長祥男爵の蝦夷松。明治・大正・昭和の盆栽の普及に尽力した平野男爵も、発足時から会員であった。

評価しています。ただし、最近鉢や色彩美等を考慮せず、「縁口植木屋然」と並べて喜ぶ風潮があるとし、「大自然の写意」を追求して「世界に誇るべき我が国独特の芸術」として存続させる必要を説いて稿を閉じています。「写生」と「写意」を峻別して、後者に盆栽の本質や芸術性を認めようとする論調は、同じく創刊号に掲載された田村利福「芸術化されたる盆栽」にも共通しています。こうした論考が創刊号に掲載され、さらには巻頭を飾っている点に、当時、盆栽の芸術論が前景化していた様子がうかがえます。この点は、『盆栽雅報』等の創刊号と比較したとき、『盆栽』の特徴としてより明瞭に指摘できると思われます。

『盆栽』は、この後、小林憲雄に引き継がれ、小林は誌面や公開展覧会を通して、盆栽芸術運動と呼ぶべき活動を展開し、昭和9年に「美術の殿堂」（東京府美術館）において盆栽展（国風盆栽展）が開かれるに至るのです。

（当館学芸員 林 進一郎）